

教科	社会科	単元名	「自動車工業のさかんな地域」
----	-----	-----	----------------

## 単元でつきたい力

(教科等でつきたい力)

日本の自動車工業の製造や技術、開発などの取り組みについて、学習課題の解決に向けて、進んで追究し、自分なりの考えを形成する力

(学校図書館等の活用でつきたい力)

- ・図書資料やパンフレット、インターネット、インタビューなどを通じて、自動車が抱える課題を解決する方法について調べる力
- ・図表などの資料を効果的に活用し、自分の伝えたい話や言葉・文章に生かす力（国語「情報のとびら 文章と図表」）

★出典で資料がフェリシモ学校図書

- ① - STEP3ABCD
- ② - STEP 3 G
- ③ - STEP 3 JK

該当番号の詳細内容は「大阪府情報活用能力ステップシート」から確認できます。



## 単元における学習の展開（全15時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第1次 (7時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの生活と輸送用機械の関わりについてイメージマップから考える。</li> <li>・自動車工場の様子や製造の過程、そこで働く人について知り、工夫や課題について考える。</li> <li>・自動車工場と関連工場とのつながりやどのようにして消費者に届けられるのを知る。</li> <li>・日本の自動車工業と外国との関わりについて考える。</li> </ul>
第2次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車についての課題とこれからの社会に求められる自動車について考える。</li> <li>・図書資料、インターネット、パンフレット、インタビューなど調べる内容や方法の計画を立て、課題解決に向けて調べる。☆</li> <li>・調べたことを元にして、「今ある自動車の課題・現状」「調べた理由」「自動車会社に今後作ってほしい未来の車」について考える。</li> </ul>
第3次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の伝えたい未来の自動車について、プレゼンテーションにまとめる。</li> <li>・グループの友だちとプレゼンテーション形式で発表し合う。</li> <li>・クラス代表を決め、自動車会社の人に「私たちの考える未来の車」をプレゼンテーション形式で発表する。</li> <li>・自動車会社の人から、発表内容に対する講評を頂き、自動車を売る立場から考える「未来の車」についての話を聞く。</li> </ul>

## 本時のねらい

- ・自分の伝えたい未来の車について、資料を活用し、プレゼンテーションにまとめる。

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用及び言語能力の育成のためのポイント・指導上の留意点
導入 (5分)	<p>1. <b>本時の学習課題を確認する。</b> 前時までのワークシートから、伝えたい未来の車について決めておく。</p> <p>「未来の自動車」について伝え合い、自分の「未来の自動車」について考えよう。</p>	
展開 (35分)	<p>2. <b>伝えたい未来の車について、プレゼンテーションの原稿にまとめる。</b> 以下の3枚のスライドを作る。 ①今ある自動車の現状・課題 ②調べた理由 ③作ってほしい未来の自動車</p> <p>3. <b>自分が伝えたいことが分かりやすく伝わる資料（図表）を選び、スライドに入れる。</b> 複数の資料がある場合は、どの資料が効果的なのか考えて選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見本のプレゼンテーションを作成し、伝える項目を例示する。</li> </ul> <p>資料についての出典を示すことをおさえる。</p> <p>国語「情報のとびら 文章と図表」でつけた力を生かす。</p>
まとめ (5分)	<p>5. <b>学習のふりかえりをする。</b> 調べてきたことを元にして、未来の社会にとって必要になる自動車について考えられたかふりかえる。</p>	

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・国語科の「文章と図表」での学習で身につけた力を使って、提示する図や表、グラフ、写真などが自分の伝えたいことを効果的に表しているのかという視点でスライド作りを進めていた。
- ・「環境」「福祉」「安全」など、テーマを決めて、課題解決的に調べ学習に取り組んだ。図書、自動車会社のウェブサイト、自動車のパンフレット、インタビューなどの方法から自分で必要な方法を選んで調べることができた。
- ・付箋を使って、アドバイスをし合ったことで、発表後にブラッシュアップするときに手直しがしやすそうだった。付箋を見て、スライドの改善をしていた。
- ・アドバイスの観点（「課題は解決できそうか」「発表の内容について」「もっと聞き手が知りたいところ」）を示した。どの観点で発表を聞けばよいか明確だったので、活発な交流ができた。



活発に交流をしている様子